

第1号様式

履 歴 書

(4年 5月 9日現在)

フリガ ナ 氏 名	ヒオキ テツヤ 日置 哲也	男 ○・	現住所 〒509-6103 岐阜県瑞浪市稲津町 小里1162-12 Tel:09080788138 E-mail: relaxin_pk@yahoo.co.jp
生年月 日 (年齢)	1976/7/20	45歳	

学歴

年 月	事 項
年 月	2001 多治見工業高校陶磁科学芸術科 卒

職歴

年 月	事 項
年 月	2001 岐阜県土岐市 点窯 2005 点窯 退所 2006 岐阜県瑞浪市 カネ利陶料勤務 2015 カネ利陶料代表就任

学位・称号・資格

名称	授与年月日	授与機関	論文題目又は授与理由

賞罰

年 月	事 項

第2号様式

研 究 芸 術 活 動 業 績 書

(氏名 日置 哲也

)

研究芸術活動歴

総括的に記入して下さい。

多治見工業専攻科にて陶芸を学び、卒業後に土岐市の窯元に勤め、器を作る仕事をしました。陶芸には、完成に到るまでに様々な工程があり、粘土の下仕事やタタラ成形、ロクロ、窯の焼成。荷造りや梱包など窯仕事の全般的な事を学びました。

しかし、カネ利陶料で「土を作る」ということを知るまでは、粘土は自分から探しに行くものではなく与えられる物でした。与えられた素材の中でできる技術を身に付ける事が当然だと思っていました。それまではビニール袋から取り出す物を「粘土」だと思っていたのが、いざ粘土を作るという仕事の現場に入った時に、何をやっているのか全く理解することが出来なかったのです。

「粘土」はいきなりそこに存在している訳ではなく、原土と呼んでいる原料素材があり、それらを複雑にブレンドしながら整えていきます。

美濃地方の粘土作りは、ブレンドの技術が長けており、安定した良質の粘土が生産され、地場産業である美濃焼を支えています。

ブレンドをするということは、高い水準で品質をまとめる事が出来るのですが、それと同時に、各々の素材の特徴を平均化して、失う事でもあります。

数多くある原土の特徴を先ずは、自ら触って焼成して、可塑性や耐火度を実感として理解しないと、仕事を通して出会う窯元メーカー様や、個人で活動する陶芸家の方々に対して、提案やご相談に乗る事が出来ない為、仕事の傍ら、素材を触って焼くことを続けています。

普段扱う粘土の前には原土があり、山があり、土地の歴史やそれらを使える素材に変えていく技術があり時間があります。堆積物である粘土を扱いながら新しくものづくりをしていくという行為をより深く感じるようになりました。

研究芸術活動の業績目録 I (主要な業績)

主要な業績10件以内について記入して下さい。

(氏名 日置 哲也)

題 目 等	発表年月	発行所・発表雑誌・発表の場 等	備 考
-------	------	--------------------	-----

「chisou」 CD	2014	第10回美濃国際フェスティバル 入選	
	2016	個展 「美しい」	ギャラリー芽楽
	2018	monolith 結成	chisou live BGM LAB.xmonolith
	2018	個展 「トキノマ」	ギャラリー芽楽
	2019	「土にふれる・土をしる」	岐阜県現代陶芸美術館
	2020	個展 「現象と、なにか」	ギャラリー芽楽
	2022	「象徴主義」	水犀
	2020	「山本展」	白日
	2021	「カネ利陶料展」	うつわノート
	2022	日置哲也展	うっしき

研究芸術活動の業績目録 II (その他業績)

前頁「研究芸術活動の業績目録I」に準ずる業績について記入して下さい。

(氏名)

題 目 等	発表年月	発行所・発表雑誌・発表の場 等	備 考